

各関係機関・団体長 様

愛媛県病害虫防除所長

病害虫防除技術情報（第 4 号）の送付について

このことについて、下記のとおりお知らせしますので、御参照の上、防除指導方よろしく申し上げます。

記

1 情報の内容 冬期のスクミリンゴガイの防除対策の実施について

2 令和 2 年度の発生状況と今後の予想

- (1) 水稲におけるスクミリンゴガイの発生面積は、平成 29 年に比べ約 1.2 倍に、被害面積は約 1.7 倍に増加している（病害虫防除所調査）。
- (2) 近年の暖冬の影響によりスクミリンゴガイの越冬個体数が多くなっている。
- (3) 3 か月予報（高松气象台、令和 2 年 12 月 25 日発表）では、平均気温は平年並か低いとされ、また 1 か月予報（高松气象台、令和 2 年 12 月 31 日発表）では、平均気温は低いとされており、スクミリンゴガイの低温による水田や用排水路での密度低下が期待される。

3 対策

- (1) 貝を物理的に破碎し、厳寒期（1～2 月）の寒風にさらすため、冬期の耕うんを実施する。
なお、冬期の耕うんのポイントとして、以下の点に留意する。
 - ①破碎・殺貝効果を高めるため、土壌水分が少なく田面が硬い厳寒期に実施し、トラクターの走行速度を遅め、ロータリーの回転は速くすることで、土壌を細かく砕くようにする。
 - ②黒ぼく土の場合、多くの貝が土中深さ 6 c m 未満で越冬するため、耕うん深度は 6 c m 程度を目標とする。
 - ③未発生圃場への貝の持ち込みを防止するため、使用後のトラクターに付着した泥を洗浄する。
- (2) 発生の多かった地域では、越冬場所をなくし越冬個体を寒風にさらすため、殺害効果が高まる厳寒期（1～2 月）に、地域全体で水路の泥上げを実施する。
- (3) 農林水産省「スクミリンゴガイ防除対策マニュアル（移植水稲）」参照。

<https://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/gaicyu/attach/pdf/index-12.pdf>

4 被害（令和 2 年）



写真1 成貝による食害の様子（右：卵塊）



写真2 スクミリンゴガイによる被害